

C&C#新(平)
07.10.18
志田

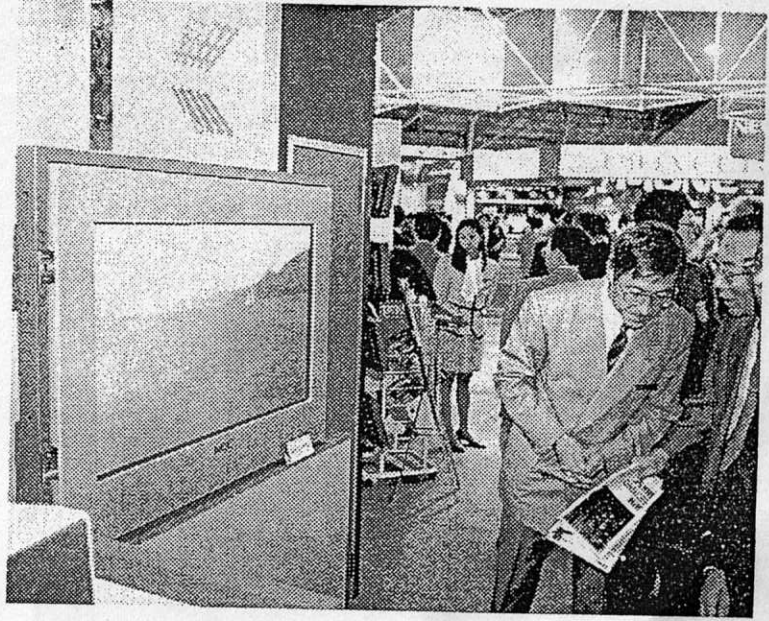


産化に向けての
発表が相次いで
いる。

フラズマディスプレイ(PDP)の事業化の動きがここに至り一段と活発化している。富士通は、富士通セ

壁掛けテレビの時代がもうそこまで来ている。CRT(ブラウン管)は、四〇型の場合、重量一〇〇kg前後まで巨大化するといわれており、日本の家屋構造からみて普及は難しい。このため最近では、CRTや液晶パネルを使用しながらも薄型化、軽量化を図った大型サイズ(40型以上)のプロジェクションテレビの商品化が相次いでいる。しかし、大画面でさらに薄型が求めら

また、富士通は、42型カラーフラズマディスプレイパネルを九六年十月から量産化に入ることを見越して八月下旬に正式に発表。二〇〇〇年までの五年間に六百億円を投資、42型パ



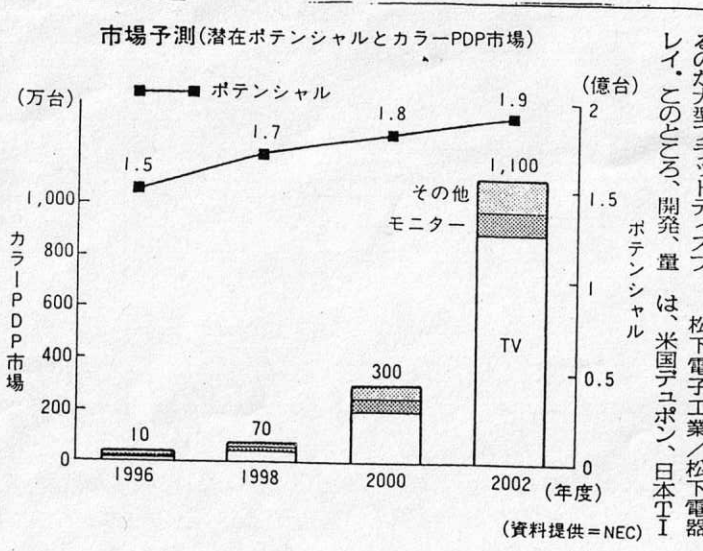
フラットディスプレイパネルによる壁掛けテレビの実用化も目前

壁掛けTV時代を築く

PDPの事業化 各社の動き活発

求される壁掛けテレビとして、俄然脚光を浴びてきているのが大型フラットディスプレイ。このうち、開発、量産は、米国デュポン、日本NTT

ネル換算で月間十万台の生産体制を構築する計画。松下電子工業・松下電器



軽量で10%以下の薄型化可能

B管やL管より CDより 大型化で優位に

と共同開発した世界初のテレビ用26/40型カラーPDPを発売する。26型テレビ用PDPはこの十月からサンプル出荷を開始し、40型高精度テレビ用PDPは九六年六月にサンプル出荷の計画。

NECでは、昨年のエリシヨード40型PDPを試作・参考出品、事業化の準備を進めてきたが、本格的に事業化に乗出すことを発表した。今年度中に五十億円を投じ、玉川事業場(川崎)に月産千枚の能力を持つ量産ラインを建設する。二〇〇〇年までに累計八百億円を投資し、月産十五万枚の体制となる。カラーPDPの売上高も二〇〇〇年に一千億円を計画。来年後半には40型カラーPDPの量産供給を始める。

パイオニアもこのほか40型予測している。

のカラーPDPの試作機を開発、九六年度内にも商品化、次世代カラーディスプレイ事業に本格進出する。

ソニーは、先にフラズマアドレス液晶技術を使用したアクティブマトリックス型フラットディスプレイ(フラズマトロン)(仮称)を開発、来年には実用化する方針。

ブラウン管は、40型以上は重量などの面で商品化が難しく、液晶(LCD)は対角20型までが実用化の限度といわれている。こうした点から省スペース化(二〇%以下の薄型化が可能で、かつ軽く、消費電力の少ないPDPやPALCなどが大画面(40型以上)では期待されている。

特にNHKは、九七年開催の長野冬季オリンピックまでにハイビジョン用PDPを実用化する方針で、メーカー側と共同開発体制をとってきている。NECでは、カラーPDPの市場規模を二〇〇二年に七千六百億円とみており、この大半がテレビ用。台数ベースでも九六年が十万台、二〇〇二年には一千万台と、

94年の写真